

日 利 本

発 行
加賀保護区保護司会

事 務 所
加賀市大聖寺南町
二 11-5 番地
TEL (0761) 75-7428



一日保護司・街頭宣伝出発式（7月1日）

保護司の皆様におかれましては、日頃より更生保護活動を通じて、犯罪や非行のない町づくりに多大なご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

二〇二三年一月に「加賀市学校教育ビジョン」を公表し約一年。スローガンは、Be the Player。子どもたち一人ひとりが、自分で考え、動いて、生み出せる人、プレイヤーであってほしいという思いを込めています。改革では、「授業を変える／子どもの学びの姿を変える」ことをシンプルに本気で目指しています。これは、子どもたちが向かう将来像から指向している部分もありますが、今の学校現場において、いじめ、不登校、特別支援教育、学力格差、家庭の教育力の低下などの教育諸課題に、それぞれ別次元で縦割りの発想で対応をしていくことには限界を感じているからです。そのため、子どもが一日の生活で一番長い時間を過ごす「授業」そのものの在り方を変えていくと。子どもを誰一人取り残すことなく、確実に学びのステップを踏むことができて、比べるのは周りではなく、昨日より今日、今日より明日、自分自身の成長を感じられるような、そんな意味がある毎日を子どもたちに届けたいと思っているからです。一つの型にはめる「同じペースで、同じことを、同じ方法で」の教育観は今の子どもたちには犠牲にするものが大きく、旧来型の教育観から大人たちがどれだけ脱却できるかという改革でもあります。確実に変わっていく子どもたちの姿に大きく背中を押されながら、教職員や教育委員会職員はまた勇気をもらって、改革を前に進めていくことができます。



授業を変える本丸から逃げない
加賀市の学びの改革

加賀市教育長 島谷 千春

第七十三回 社会を明るくする運動

地域活動部 橘 博人

毎年、「社会を明るくする運動」

犯罪や非行防止活動の一環として、市内の小中学生に親子標語・ポスター・習字作品の応募を行っています。安全で安心な明るい地域社会を築くため、若い子たちの関心を高め、犯罪や非行の防止について理解を深めることを目的としています。応募作品審査後、アビオシティ加賀セントラルコートにて、優秀作品の展示と表彰式を行い、啓発活動をしています。保護司会では、表彰式典と並行して「中学生の一日保護司」を実施しています。平成二十五年より十年、コロナの影響で休止期間もありましたが、各中学校から二名参加してもらい、保護司の仕事や地域の犯罪予防等の説明を受けています。その後、保護司委嘱状の交付を受け、他の社会を明るくする運動実施委



中学生一日保護司による啓発活動

員と共に玄関口で来場者にリーフレット等を配布、街頭宣伝を行っています。学校では教わることの無い保護司の仕事、犯罪予防や更生保護について理解を深め、市民に家庭や地域社会の大切さ、平和で犯罪の無い社会の実現に向かい活動しています。参加児童生徒及び学校関係者のご協力に感謝いたします。

中学生 一日保護司の感想

■今回、社会を明るくする運動「中学生の一日保護司活動」に参加してみても、社会を明るくするには良いところを伸ばすことも大事だけれど、補わなければいけないところを補うのも社会を明るくすることの一つであることを学びました。自分は犯罪や非行を直接的にも間接的にも関わったことがなく、刑務所に入った人がどんな風にして社会復帰しているのかすら考えたこともありませんでした。ですが、この活動で具体的にどんな風に社会に戻ってきているのか少しでも知ることができました。また、地域の人たちと直接関わる体験ができて加賀市本来の明るさを感じることができました。これからの地域社会は若者である私たちが作っていかねばならないと思うと、このような貴重な体験はもっと増やすべきだと思います。これだけで満足せず、今回学んだことをた

くさんの人たちに伝えていきたいと思っています。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(山代中三年 女子)

■今回、社会を明るくする運動に参加させていただき、貴重な機会になりました。僕は、社会を明るくする運動というのを聞いたことはありましたが、何の運動かわからなかった状況での参加でした。今回で、社会を明るくする運動とは、国民の犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの立ち直りについて考える運動だと分かりました。また、保護司という仕事は大変な仕事で、実際に一日保護司として広報活動に参加してみると、非常に意義のある仕事だと実感しました。犯罪や非行が生まれるのは地域社会であり、罪を償う場も地域社会なので、自分たちの力でよりよく明るい社会にしていけることが大切だと思います。よりよく明るい社会にしていけるには、保護司という仕事や社会を明るくする運動をたくさんの人に知ってもらわなければならないと思いますし、自分自身では、非行防止や犯罪についての関心を深めて、自分にできることを考え、実行していきたいと思いました。(山代中三年 男子)

■私は、今まで保護司という仕事は知らず、今回の体験で初めて知ることができました。そして、体

験を通して保護司という仕事がある世の中にどれだけ必要なのかを知ることができました。体験する前までは、社会を明るくする運動の標語もその活動の一つと分からなかったのですが、正直、毎年積極的に書くことは行っていないのでした。ですが、この標語を作ることによって、いつどこで、犯罪や非行になつてしまふか分からない世界について考える時間で、これからの私たちが生きやすくていてくれるという感じが分かりました。そして、体験中に私たちに話しかけてくれる方もいました。その人達からは、毎回「保護司なの、すごいね」と声をかけられてくれて、世の中にとつてどれだけ大事なかが分かりました。話の中でも、保護司の皆さんは、無償で行っているの聞いてとても驚きました。世の中に、犯罪を犯してしまった人は戻りづらいと思いますが、それを優しくサポートしてくれる皆さんは、とても感謝されていると思います。それほど大切な仕事にこの年に関わることができて本当に良かったです。最後に、私は犯罪を犯してしまつた方を新たな人間として優しく受け入れてあげる、見守っていくということも、保護司でない私にも出来ることなんだと思いました。私自身も、犯罪に引っかけられないようにも気をつけていきたいと思っています。(山中中三年 女子)

ケース研究会

緊張して臨んだケース研究会

研修部 谷口 寛

七月六日、山中中学校で三年生二クラス五十五名の生徒さんを対象にケース研究会を行いました。

今回は、実際にあった少年事件の事例二件について考え、八グループに分かれての討議の後、意見発表を行うという流れで進めていきました。

二件の事例は、万引きと特殊詐欺でした。私は、グループ討議の中へは助言者での参加でしたが、

生徒たちと同じ目線で考えようという心掛け、話し合いの中に入りしました。

全体会での意見発表後に、事例1（万引）及び2（特殊詐欺）について、生徒たちに感想や意見を出してもらいましたが、しっかりと発言が返ってきており、真面目な生徒たちであると安心しました。昨今、闇バイトや特殊詐欺と呼ばれる犯罪のニュースが多く報道されています。複雑な犯罪が増加してきており、今回、一緒に考えてくれた生徒たちやその後輩、仲間たちが、このような犯罪に巻き

込まれることがないように、我々の活動が少しでも役に立つてくれれば有り難いと思います。

生徒のアンケートより

参加者の性別

男性五九・二％
女性四〇・八％

●事例1については万引きはいけないことだし、している人がいたら止めないといけないと思いました。事例2は自分はそのようなもの引っこかりやすいので気をつけたいと思いました。

●普段めったに考えないことで、でも中学一年生という私と年の近いことの事例でとても身近に感じられました。ケース研究会を通して私は先輩、友達から万引きなどの犯罪に関わることを誘われたら少し立ち止まり冷静に考えて判断し自分では抱え込まずに信頼できる大人に相談したいと思いました。

●普段考えていないことなど班の人と話し合うことができました。話し合う中で、自分と違った意見に対して質問したり疑問をもって話し合いに参加しました。



研修旅行

京都視察研修旅行

研修部 小原公美子

令和五年九月七日、五年ぶりの宿泊研修旅行は雨予報でしたが、参加者の皆様の日頃の行いのおかげで暑過ぎずのお天気で、移動もスムーズに進みました。一日目の各地の少年院や少年鑑別所、湖南学院の院長のご経験もある池田正興先生の講話では、昭和の犯罪傾向から現代社会における犯罪傾向などの長い経験からのデータに基



づくお話がありました。どれも分かりやすく納得できるお話でしたが、私が一番頭に残ったお話は『現在の保護司不足について』です。私に保護司が務まるのだろうか？その不安を少しでも軽くするには、経験者とのペアで経験者がリードしていく事だとお話しされました。保護司にお誘いする時、その話ができればハードルも低くなるのではないかと思いました。

その後の国宝書院飛雲閣では日

下会長のお陰で普段は見せてもらえない所まで見学することができ、書院の能楽堂は観る側からの視点での仕掛けや障壁画や天井画の繊細さに圧倒されました。飛雲閣は、自然と調和した美しさがあり、歴史を感じながらも心が落ち着く空間で貴重な体験であり、文化的な洗練された空気が漂う心に残る見学でした。

二日目の研修は更生保護法人西本願寺白光荘の施設見学。白光荘は女性の保護施設で、家族や男女関係などの問題での入所の方が多いとのお話でした。運営の資金は殆どが国からの現員現額制の委託費で賄っているため、かなり厳しい運営状況にあり、寄付金を募っているとのことでした。自己肯定感や自己効力感を高める為の講座なども実施されているとお聞きし、私にお手伝い出来る事があるのではないかと、小さなことだけでも一つの物を作り上げる達成感も自信につながるのでは？と思い、ボランティアに伺いたいと思いました。



合同研修会

四団体合同研修会（十一月二十八日）

協力組織部 大神 妙子

例年の保護司会と更生保護女性会の交流を含めての研修会に、今年度は初めて加賀市PTA連合会、加賀市女性協議会を加えての四団体合同研修会開催ということでスタートし、会議を重ねながら準備が進められてきました。金沢法務少年支援センター長、金沢少年鑑別所長の佐藤健司氏をお迎えして「非行少年に大人ができること（支援の在り方）」と題してのご講演でした。約一〇〇名の参加者の中に



は、一般で保護者、里親の会、学童保育などに携わる方々の参加がありました。佐藤氏は昨年の非行の現状とその向き合い方、非行のある少年の内なる生きづらさを理解すること、それに関わる者としての視点の在り方が一番大切なんだと力強く話されていました。公認心理師、臨床心理士の専門的立場からと、一人の人間としてどう関わるべきかを長年模索されてきた深い言葉だと思いました。これまでの大人の常識にとらわれない考え方が必要だと思いました。講演後、周囲の方々から、「問題を抱えている子どもにどう接すればいいの



のか」、「自分自身を振り返る機会となった」、「今後の対応に役立たせたい」などの感想がありました。また佐藤氏はNHKのニュース出演時、「私は一緒に困りたいんです」と言われていました。「困りたい」とはどういうことか？子どもの目線で一緒に困ってくれる人がどれだけ自分の近くにいるかということ、してしまった事実は消えないけど、一緒に同じ目線で苦しみ悩むこと、それが一緒に困るということではないか。又「自分のいいところ」は何だろうと問いかける。自分を大切にできてこそ自分以外の人も大切にできるのではないかとそんな意味が込められていると思いました。これは新鮮な気づきでした。質疑応答でもあったように、一緒に困ってくれる人や機関が少しでも近くにあることが望まれると思います。これを機会にサポートセンターが金沢法務少年支援センターに繋がるきっかけになればいい、という意見があったこともお伝えしておきます。

*講演会の資料がまだ少しばかりありますので、必要な方はサポートセンターまでお越し下さい。

令和五年度 定例研修

第二回 六月二十七日（火）

於 市民会館三階ホール

テーマ 「贖罪プログラムについて」

再犯防止を目的とした新しい取り組みで、特に被害者の視点を取り入れたプログラムを実施するための研修を行った。

第二回 十月二十四日（火）

於 アイリスホール

テーマ 「薬物事犯対象者の処遇について」

近年薬物で逮捕され保護観察の対象になるものが増加傾向にあるが、保護司にとって研修の重要な部分を占めつつある。

第三回 一月二十一日（日）

於 ホテル翠明

テーマ 「接触について」

（保護観察、生活環境調整）

*開始はいずれも十三時半より

講師は金沢保護観察所

中村美雪保護観察官

人事往来

退任

令和 5・10・19 西野 忠夫 大聖寺

有名作家チャリティ作品展

多くのご協力に感謝

令和五年度第四十六回有名作家チャリティ作品展が七月二十八日から七月三十一日までめてつエムザの「エムザギャラリー」で開催されました。今年も加賀保護区地域の有名作家から多くの作品が寄贈されました。入札により更生保護活動の大切な資金として活用されます。出展作家の皆様に改めて感謝いたします。

◎加賀保護区出展紹介(敬称略)

- 中村 秋塘
工芸 ぐい呑み「彩釉」
- 山本 芳岳
工芸 赤絵花文菊型鉢
- 道場 八重
工芸 黄色幾何学文角小皿
- 裕 紘一
工芸 九谷色絵野菊皿
- 中村 元風
工芸 月に兎図輪花皿
- 谷口千佳子
絵画 neko (ねこ)
- 柿谷昭一郎
絵画 カラー
- 木田 克之
工芸 藤竹文様うるし絵吸物椀

- 谷口 博山
工芸 銀杏漆絵丸盆
- 長谷川 清
絵画 小さな花

- 中村 孝也
工芸 兎蒔絵ブローチ 二点
- 佐竹 一夫
工芸 黒檀造酒器カップ

- 中嶋 虎男
工芸 水目造杯(轆轤挽)
指揮拭漆仕上
- 松山 武司
工芸 ベつ甲蒔絵イヤリング

- 松山 武司
工芸 琥珀 蒔絵イヤリング
- 師池 一貴
工芸 蒔絵 ぐい呑み

- 上野 茂男
絵画 白山スーパ林道
- 松本 隆
絵画 バラ

- 児玉 孝吉
絵画 雄鳥(三国町)
- 三井 聖子
絵画 それぞれ

- 佐藤 亮
工芸 色絵盒子
- 嶋田 壽楽
工芸 青手四君子鉢

- 芋野 憲夫
工芸 彩流金銀彩白象

- 池島 保雄
工芸 清白瓷流水文彫皿

- 川北 良造
工芸 樺造輪花銘々皿

- 川北 浩彦
工芸 樺造椀
- 吉田 華正
工芸 硝胎漆器茶碗雲龍蒔絵

- 山下 一三
工芸 カモノハシ片口
(大小セット)

- 野沢 洋子
工芸 自然釉 花器
- 川村 健一
絵画 浮遊

令和五年度

石川県更生保護功労者顕彰式

顕彰式典は十一月二十二日白山市鶴来総合文化会館クレインでの開催となりました。加賀保護区関係では、次の方々が受彰されました。

▼全国保護司連盟理事長表彰

- 日下 賢城(山中)
中川久爾彦(山代)

▼中部地方更生保護委員会委員長表彰

- 桶谷まゆみ(大聖寺)
黍根 健治(片山津)
木村 恒三(片山津)
宮崎 信子(片山津)

▼中部地方保護司連盟会長表彰

- 小原公美子(大聖寺)
上出加喜子(山代)
河嶋 和江(大聖寺)
山村 浩美(片山津)
横河 了然(片山津)

▼金沢保護観察所長表彰

- 市田 博文(大聖寺)
藤懿まり子(山中)

▼石川県保護司会連合会会長表彰

- 唐谷 好二(片山津)
木村 峰久(山代)
下出 美香(片山津)
山下 葉子(片山津)
要明 由美(山代)

編集後記

新年早々の能登半島地震は、立ってられない程の揺れが続き、恐怖さえ感じました。
亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災地の方々、避難生活を余技なくされている方々には心よりお見舞い申し上げます。
その中で「日万和李」第五十五号を発行できたことは、幸いなことでした。皆様のご協力にあらためて感謝致します。